

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年10月12日(2017.10.12)

【公表番号】特表2011-521004(P2011-521004A)

【公表日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【年通号数】公開・登録公報2011-029

【出願番号】特願2011-511056(P2011-511056)

【国際特許分類】

C 07 D 201/10 (2006.01)

【F I】

C 07 D 201/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年8月23日(2017.8.23)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

塩化ニトロシル(NOCL)を用いてシクロアルカンをフォトニトロゼーションしてラクタムを製造する方法において、

上記フォトニトロゼーションを、2リットルの反応器中に塩化ニトロシルを10リットル/時で連続的に導入して行い、反応器の中心部に80個のLEDの束を備え、各LEDが30ルーメン(350mAの電流時)の590nmに波長の中心を有する単色光で実施することを特徴とする方法。

【請求項2】

シクロアルカンがシクロドデカンである請求項1に記載の方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0028

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0028】

本発明方法は以下の複数の特徴を単独または技術的に可能なすべての組み合わせて有することができる：

(a) 本発明の一つの実施例では、LEDから発せられる単色光は550～650nmの間の範囲にある平均波長の一つの値をとる。

(b) 本発明の一つの実施例では、LEDから発せられる単色光は585～595nmの平均波長の一つの値をとる。

(c) 本発明の他の実施例では、シクロアルカンのフォトニトロゼーションを本体が好ましくはガラスから成るマイクロリアクター中で行う。

(d) 本発明の他の実施例では、本発明方法がフォトニトロゼーション時に生じる塩酸オキシムのベックマン転移段階を有する。

(e) 本発明の一つの実施例では、ベックマン転移をマイクロリアクターを用いて行い、このマイクロリアクターの本体はタンタル、フッ素ポリマー、ガラス鋼(glass steel)またはガラス、好ましくはガラスから成る。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0051

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0051】

結果として、このLED発光スペクトルは、本発明のフォトニトロゼーションを行う場合、550～650nmの範囲にある平均波長の典型的な一つの値を有することを特徴とする。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0052

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0052】

すなわち、平均波長の一つの値は585～595nmにすることができる。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0067

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0067】

実施例1

LEDによるシクロドデカンのフォトニトロゼーション

中心部にLED(Philips Lumiled社製 Luxeon LXML-PL01-0030)を80個の束(各LEDは30ルーメン(350mAの電流時)を出し、590nmに中心を有する単色光を発光する)を備えた2リットルの反応器中に、3806gの四塩化炭素中に32質量%のシクロドデカンを含む溶液と、200gの90%硫酸とを攪拌しながら導入し、LEDを点灯し、無水塩化水素酸ガスを10リットル/時で、塩化ニトロシルを10リットル/時で連続的に3時間導入する。その間、反応媒体は25℃を超えないように冷却した。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0068

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0068】

高性能液体クロマトグラフィー(HPLC)を用いて硫酸相中で分析した選択性(シクロドデカノンオキシムと反応副生成物の合計パーセンテージに対するシクロドデカノンオキシムのパーセンテージの比で表される)は89%であった。これは従来技術の水銀真空ランプやナトリウム真空ランプを用いた場合に観察されたものよりも高い値である。